

令和 5 年 1 月 23 日 発行

☆☆————☆☆

東北農業青年応援通信第91号

☆☆————☆☆

《トピックス》

1. やまがた元氣「農の風」のご紹介(東北農政局山形県拠点)
2. 「先輩就農者インタビュー動画」のご案内(福島県)
3. 青森県農業経営・就農サポートセンターのご案内(青森県)
4. 令和 5 年度くにみ農業ビジネス訓練所研修生募集について(福島県国見町)
5. 「農業技術革新・連携フォーラム 2022」のご案内((公社)日本農業法人協会)
6. 「第 10 回次世代農業サミット」のご案内((公社)日本農業法人協会)
7. 「全国果樹産地の担い手・労働力に関するシンポジウム」及び「醸造用ぶどうの生産拡大に向けた意見交換」のご案内(農林水産省)
8. 「農林水産物・食品輸出基盤強化資金」のご案内(農林水産省)
9. 編集後記

◆◇————◆◇

1. やまがた元氣「農の風」のご紹介(東北農政局山形県拠点)

東北農政局山形県拠点では、県内で活躍している農業者を紹介しています。
今回ご紹介するのは、寒河江市の西尾 佑貴さん・沙織さんご夫婦、鮭川村の熊谷 由美子さん・耐志さんご夫婦、小国町の山口 ひとみさんです。

詳しくはこちらから↓

やまがた元氣「農の風」：東北農政局山形県拠点 HP

□寒河江市 西尾佑貴さん・沙織さん「農薬や化学肥料を使わず、おいしい旬の野菜を生産し消費者にお届けしています。」

https://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/yamagata/nou_no_kaze/attach/pdf/r03-14.pdf

□鮭川村 熊谷由美子さん・耐志さん「ここにしかない価値をつくりたい きのこ王国 鮭川村 菌床なめこ。」

https://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/yamagata/nou_no_kaze/attach/pdf/r03-17.pdf

□小国町 山口ひとみさん「小国町において無農薬雑穀（たかきび、もちきび）の生産・加工・販売に取り組んでいます。」

https://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/yamagata/nou_no_kaze/attach/pdf/202301-nonokazeNo.24.pdf



2. 「先輩就農者インタビュー動画」のご案内(福島県)



福島県では、YouTube チャンネルにて、先輩就農者・生産者へのインタビュー動画を公開しています。現在、県北・県南・会津・いわきの先輩就農者等のインタビューが公開されていますので、是非ご覧ください。

詳しくはこちらから↓

□【先輩就農者インタビュー動画公開！】：福島県就農ポータルサイト「ふくのう」YouTube チャンネル

https://www.youtube.com/@fukunou_official/videos



3. 青森県農業経営・就農サポートセンターのご案内(青森県)



青森県では、「青森県農業経営・就農サポートセンター」（旧 農業経営相談所）を設置し、公益社団法人あおもり農業支援センターに「県総合窓口」、各地域県民局地域農林水産部に「サテライト相談窓口」を設けて、農業者の皆さんや就農希望者の方からの相談を無料でお受けしています。

法人化や経営継承、労務管理など、経営上の課題を抱えているという農業者の方、また、新たに農業を始めたいという方は是非ご利用ください。

詳しくはこちらから↓

□農業経営のこと。就農のこと。「青森県農業経営・就農サポートセンター」に御相談ください！：青森県 HP

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/kozoseisaku/nougyoukeieishuunousapo-tosennta-.html>



4.令和5年度くにみ農業ビジネス訓練所研修生募集について(福島県国見町)



国見町では、農業の研修施設「くにみ農業ビジネス訓練所」を開設し、新規就農希望者の年間研修を受け入れています。

新規就農を見据えながら、実習・座学講座により農作物栽培・農業経営に必要な技術・能力を身に着けることができます。

研修期間から就農までの各種支援(研修期間中の町営住宅家賃補助)も準備していますので、新規就農をお考えの方は是非ご検討ください。

(1)長期研修

【内 容】

・4月～3月まで年間を通しての農作物の栽培及び座学研修(年間1,200時間以上)

【定 員】3名程度

【申込〆切】令和5年2月10日(金)

(2)短期研修

【内 容】

・栽培・土壌・防除・経営等のテーマ別に知識を身に着ける研修(各講座2～4回)

【定 員】各コース15名程度

【申込〆切】令和5年3月10日(金)

詳しくはこちらから↓

□令和5年度くにみ農業ビジネス訓練所研修生募集について：国見町HP

<https://www.town.kunimi.fukushima.jp/site/nogyo-kunren/14539.html>

(トップページ)

<https://www.town.kunimi.fukushima.jp/uploaded/attachment/10028.pdf>

(パンフレット)



5.「農業技術革新・連携フォーラム2022」のご案内((公社)日本農業法人協会)



農業の先端・成長産業化に向けたイノベーション創出への期待が高まっています。その実現には、農業界、経済界、研究者、政府等の連携強化が鍵となること

から、日本農業法人協会は、農研機構・経団連・(株)クニエとの共催により、6回目となるフォーラムを開催しています。

特設 Web サイトにおいて分科会を開催しますので、興味のある方は是非ご視聴ください。また、分科会の他に、2月28日(火)までいつでも自由にご覧いただけるオンライン展示も50件以上ご用意しています。

【分科会一覧】

① 1月31日(火) 13:15～15:50

「都道府県におけるイアコーンの生産利用技術」

② 2月3日(金) 13:30～15:30

「みどりの食料システム法活用セミナー」

③ 2月8日(水) 13:15～15:30

「農業データ連携基盤 WAGRI を活用したデータ駆動型農業に向けて」

④ 2月10日(金) 14:00～15:30

「我が国の食料・農業の姿について～地域計画に描かれる地域農業の将来像～」

【参加・申込方法】

・参加費：無料

・登録方法：下記 URL から「新規登録」の上、お申し込みください。

<https://rf2022.gakkai.online>

詳しくはこちらから↓

□「農業技術革新・連携フォーラム 2022」開催のご案内：(公社)日本農業法人協会HP

<https://hojin.or.jp/information/forum2022/>



6.「第10回次世代農業サミット」のご案内((公社)日本農業法人協会)



日本農業法人協会では、農業経営の発展に意欲のある農業者を対象に、「第10回次世代農業サミット」を開催します。

「攻めの農業！資金調達多様化の時代！」を開催テーマに、先進的な取り組みを行う農業経営者の経営体験の発表とともに、グループ討議により情報共有や課題解決の本質を探る内容となっています。

オンラインの場合は、無料でご視聴いただけますので、興味のある方は是非ご参加ください。

【日 時】令和5年2月21日(火) 13:00～2月22日(水) 14:30

- 【場 所】メイン会場：沖縄コンベンションセンター
オンライン：映像配信のみ、グループ討議等は参加不可
【申込期限】令和5年1月31日(火) 17:00 まで

詳細はこちらから↓

□第10回 次世代農業サミットを開催します！：(公社)日本農業法人協会 HP
<https://hojin.or.jp/information/dai10kaijisedainougyou/>



7.「全国果樹産地の担い手・労働力に関するシンポジウム」及び「醸造用ぶどうの生産拡大に向けた意見交換」のご案内(農林水産省)



農林水産省は、全国の果樹産地の担い手や労働力の確保・育成の機運を醸成するため、「全国果樹産地の担い手・労働力に関するシンポジウム」を開催します。

【日 時】令和5年2月3日(金) 14:00~17:00

【場 所】農林水産省7階講堂(東京都千代田区霞が関1-2-1)

※オンライン併催

【内 容】・果樹農業をめぐる情勢と令和5年度予算について
・果樹の担い手や労働力の確保・育成に関する事例紹介
・パネルディスカッション「担い手や労働力の確保・育成の始め方」

【申込〆切】令和5年1月31日(火) 18:00

(現地会場での参加は、上限の200名に達し次第締め切りとさせていただきます。)

詳細・お申込みはこちらから↓

□「全国果樹産地の担い手・労働力に関するシンポジウム」開催について：農林水産省HP

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/tokusan/230117.html>

また、上記に引き続き、国産ぶどうのみを原料とし国内で醸造する「日本ワイン」の需要増加から、「醸造用ぶどうの生産拡大に向けた意見交換」を開催いたしますので、あわせてご案内します。

上記シンポジウムにご参加いただいた方は、引き続きご覧いただけますので、是非お申し込みください。

- 【日 時】 令和 5 年 2 月 3 日(金) 17:30~18:30
【場 所】 農林水産省 7 階講堂(東京都千代田区霞が関 1-2-1)
※オンライン併催
【内 容】 (一社)日本ワインぶどう栽培協会代表理事、信州大学特任教授
鹿取みゆき氏との意見交換



8. 「農林水産物・食品輸出基盤強化資金」のご案内(農林水産省)



令和 4 年 10 月 1 日の改正輸出促進法の施行に伴い、認定された輸出事業計画に従って実施する事業者に対する新しい制度資金が創設されました。

施設整備資金だけでなく、市場調査やプロモーション活動費などの長期運転資金、海外子会社の事業活動に必要な資金等も対象であり、融資限度額は負担額の 80%以内、償還期限は 25 年以内(中小企業者は 10 年超 25 年以内)としています。

本内容について詳しく話を聞いてみたい、輸出に興味があるという方は下記までお問い合わせください。

お問合せ先はこちら↓

☐ 東北農政局 経営・事業支援部 輸出促進課

TEL: 022-221-6402(直通)

☐ お問合せフォーム: 東北農政局 H P

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/tohoku/form/keiei/renkei/161211.html>
!

新しい制度資金の内容についてはこちら↓

☐ 農林水産物・食品輸出基盤強化資金: 農林水産省 H P

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/gfp/attach/pdf/yusyutsu_keikaku-19.pdf

(チラシ)

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/gfp/yusyutsu_keikaku.html

(トップページ)

☐ 日本政策金融公庫 H P

https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/nourin_shokuhinyushutsu.html



9. 編集後記



トピック7について、果樹産地の担い手不足を解消するため、東北地域でも様々な取組が始まっています。

昨年は、青森県のりんごや山形県のさくらんぼなど、収穫期の人手不足を解消するため一部自治体で公務員の副業が許可されたり、大手旅行会社と産地が連携して、農繁期が異なる九州から働き手を確保したりといった取組が話題となりました。

本シンポジウムでは、全国各地の先進的な取組をご紹介します。また、パネルディスカッションには、東北地域から、山形県大江町で就農研修生の受け入れを行っている協議会「OSIN（おしん）の会」の会長も参加されますので、是非ご覧ください。

今週は、今期1番の寒波がやってくるようです。皆さんお気を付けてお過ごしください。

* 次回は令和5年2月上旬発行予定です



発行：東北農政局経営・事業支援部経営支援課

〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町3丁目3-1

TEL：022-221-6217

◇バックナンバーはこちらから↓

https://www.maff.go.jp/tohoku/keiei/new_farmer/ouen.html

◇このメールマガジンについてのご感想・ご意見がある方や配信停止をご希望される方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。

tohoku_ag-seinen@maff.go.jp

